

2012年7月31日 卓話（加藤小田原市長）

❖ 卓話

「地域経済活性化に向けて」

小田原市長 加藤 憲一様



小田原がこれから進めていく、この地域経済にまつわる部分の事をどういった枠組みで考えているのか、実際に具体的にどんな事をやっているのかということ、いくつかに分けて簡単にお話をしたいと思います。

そもそも小田原の地域経済の活性化に向けた推進の枠組みというのはいくつかあるのですが、ひとつは何と言っても昨年の4月からスタートしている「おだわらTRYプラン」です。これについては

前回もこういうものだというお話をして頂いたと思うのですが、経済にまつわる部分につきましては、豊かな地域資源を生かすという事を非常に重要なテーマとして掲げております。御承知のとおり、小田原を含む県西地区2市8町は様々なバリエーションに富んだ豊かな資源をたくさん持っていますが、それが生かして切れているかという残念ながら首をかしげざる得ない状況が続いております。厳しい経済状況の中で、私たちの手持ちの資源をとにかく生かして経済の価値にどれだけ転化していくかが問われている訳です。

2つめはこちらも昨年の4月からスタートしております「地域経済振興戦略ビジョン」というものを策定しました。これは小田原市が勝手につくったわけではなく、地元の経済団体、商業団体、また様々な事業者の方にも参画を頂いてビジョンを策定しております。これもいくつか柱があるのですが、その中の重要な柱が、外発型内需の大幅拡大を目指すということです。これは小田原の外からいらっしゃる方を増やし、その方たちがもたらして頂く消費を最大限に膨らませるという考え方です。

もうひとつ「無尽蔵プロジェクト」というものを小田原市ではスタートしております。これは小田原の持っている物づくりの力、あるいは文化の力など地元の経済の振興に役立つような資源に着目をして、民間の方にエンジンとなってもらう活性化を進めていこうということで10のテーマが進んでおります。具体的に今小田原で取り組んでいることをいくつか触れておきたいと思っております。

まず地域経済の活性化に向けては単純に言うと、売り上げを増やすという話と収益を拡大するという2つのベクトルがあり、2つをやっていくのですが、最初に書いたのは経済の付加価値を高めていくという取り組みをしていこうということで、特にここでは農林水産業にまつわる取り組みを紹介いたします。農の分野では専業農家の方の数が大分減ってきておりますので農業のテコ入れをしていきたいと思っておりますが、最近流行り言葉にもなっておりますが、6次産業化というもの小田原市でも進めております。あと林ですが、小田原市だけを見ても地域面積の4割は森林です。そこにある材木がほとんど地域経済に貢献されておられません。したがって財として価値がないので手入れがおろそかになる、そうすると森が荒れる、そうしますと集中豪雨などで山林から大量の土砂と樹木が流れてくる



ようになる。ですから森を生かす、そこの付加価値を取っていく。それがこの町の木が沢山ある町につながっていく。そういう意味のある循環が出来るはずだということで取り組んでおります。木材の最大のボリュームは何と言っても建設分野ですので家造り、公共施設などに大量に使われるような助成制度も構築をしたいと考えております。

水産の分野ですが、現在小田原市の漁港の西側に築造している新しい港が27年度には完成して、そこに加工することも含めてマーケットの拡大の可能性があります。小田原ならではの市場の水産鮮魚の加工・販売の取り組みも始まっております。

大きな2つめとしては、まちづくりの推進ということで、新しい市民ホール、地下街、お城通りの再開発については肅々と前に動いております。新しいホールはコンサートや芝居を見に行くだけの場ではなく、様々な市民の芸術文化活動を育てていく、人づくりの拠点として考えております。地下街は地域の様々な魅力、資源、商品やサービスをあの空間に埋め込みお客さんの流れをつくっていく空間を考えております。再開発ですが、小田原駅から旭ヶ丘高校までを幅の広い歩道を通していくように整備しております。

あと、やりたくてなかなか出来ていないのが小田原の魅力、これをどのように編集しなおして発信していくかというのはまだまだ充分に出来ていないと思っております。

一つは歴史を切り口にしたまちの魅力の発信で北条五代につつまして大河ドラマ化を目指しております。また小田原ならではの古い歴史遺産もしっかり残していこうということで、国交省の法に基づいて「歴史的風致維持向上計画」というものを頂いております。

ものづくり・アートにつきましては、古い伝統を持つ、箱根物産、寄木細工、小田原漆器などに現代的な意匠性、用途をしていくことにより見え方が変わってきます。ですから伝統産業とアートの部分の融合が大事なのではないかということでやらせていただいております。

雇用の確保と担い手育成についてですが、既存の大手事業者出て行かないようにする定着策というもの極めて重要であり、CSR活動をさせていただいております。あと若手・子育て世代の人たちが住んで頂かないとこの地域はダメになってしまいますので、教育政策、学校の充実、地域での見守り拠点づくりなどをやっていきます。

最後に震災後ということで再生可能エネルギーについて、小田原市では安全な分散したエネルギー源量を出るだけ獲得していこうということで再生エネルギーの地域自給を目指して取り組みをしております。そういったことで様々な取り組みを進めております。

ぜひ今後とも地域の経済の発展に向けて様々な形でご理解、ご協力を頂ければと思います。またロータリー様には御奉仕活動につきましても引き続きご尽力を賜りますようお願いいたします。



2012年8月7日 納涼例会 (報徳会館)

